

## 「第7回いってみい～ひんサマーカーニバル in 奈良ロイヤルホテル」開催趣旨

今年で第7回を迎える「いってみい～ひんサマーカーニバル in 奈良ロイヤルホテル」開催準備に入りました。

子どもたちの成長に置き換えれば小学校1年生になります。子どもたちが、多くの経験を積み重ね成長していく小学生生活が始まるのです。

今、地域が求められています。「医療・介護・福祉」の世界に。社会保障の世界に、「地域」「共生」「我が事まるごと」「互助」。サービス需要者に安心のキーワードはいっぱいあります。障害者福祉だけを取り上げても平成年間には大きく前進しました。

その結果、社会保障費が伸び、財政を圧迫しているとの情報が伝わってきます。その解決として、「地域」「共生」「我が事まるごと」「互助」等の言葉が生まれたと考えています。

サービス需要者の方は本当に地域を求めているのでしょうか。

生まれ育った所という意味。 現住所・本籍地・ふるさとそれぞれの地域があります。

どこで生活するかではなく、誰と生活するか、そしてどの様に生活するかではないでしょうか？

奈良市を見てみると、支援が必要な人が生活できる地域がどのぐらい整備されているでしょう。当然365日、24時間、支援が継続できる環境です。人は毎日生きているのですから。

皆さまの地域はいかがですか？ 場所である地域ではなく、あなたご自身はいかがですか？ 想像してみてください。もし貴方が支援を必要な人になった時のことを。

私、声を聴くことが出来ないのです。話し掛けられているは分かるのですが声が聞こえないのです。

私、自分の顔を見たことが無いのです。見る事が出来ないのです。愛する我が子の顔も。

私、自分の身体、一人で移動・移乗出来ないのです。

私、一人で物事を考え、一人で決めることが出来ないのです。

私、人が話している声は聴くことが出来ますが、意味が理解できないのです。

私、身体は元気ですが、心と身の調整がうまく出来ないのです。

活字にすれば、1行ですべてを表現することは困難ですが、現実はこのものではありません。

支援と共に生きなければならない人たちの生き辛さを少しでも軽減することができるのであれば、地域も選択肢の一つとして考えられます。福祉は生きています。そして、現場で起こり。現場で解決をしていきます。課題解決が当事者（サービス需要者・サービス提供者）だけの問題ではなく、社会全体の問題として関わる事が出来る市民性・県民性・国民性を育くむのが「地域福祉」ではないでしょうか

私たちサービス供給者は支援が必要な方を直接サポートいたします。皆さまは間接的に支援が必要な方が住みやすい街を創っていただけよう環境を整備していただければ大変助かります。

人権とは「この世に生まれてきてよかった」と実感できる権利です。この文を読んでくださった皆さま、「この世（奈良）に生まれてきてよかった」と実感できる奈良市になる様ご協力お願いいたします。

いつの頃だか思い出してごらん

あんなこと こんなこと  
あったでしょう(^ ^♪

春は・・・

みんなでお弁当を囲んでお花見

夏は・・・

夏祭り。あてもものに綿菓子  
みんなで見上げた夜空に花火がきれいだったこと

秋は・・・

秋祭り。担いだ子どもみこしは重かった～

冬は・・・

みんなで雪合戦

そこには、いつも見守ってくれる  
おじいちゃん や おばあちゃんがいました  
悪いことをしたら 叱ってくれる  
おっちゃん や おばちゃんがいました

そんな中で育ってきたことが懐かしく思われます  
地域で育ち、地域に育てられた思い出が忘れられません

地域って何？

私たちに出来ることって何？

それぞれの立場で考えてみませんか？

みんなが住みやすい街づくり？

楽しさでんこ盛りサマーカーニバルに参加して私たちといっしょに。